

1 テーマ ICT を活用した個別最適な学び・協働的な学びの充実

2 テーマ設定の理由

本校は各学年 15 名前後の生徒数であり、小規模ではあるが、授業において学級やグループでの話し合い活動を展開していくことはできる規模である。しかし、限られた人間関係であるが故に、他者との意見が食い違ったときに言いたいことが言えずにいたり、リーダーシップをとる生徒に任せっきりにしてしまったりすることがある。

ICT の活用により、全ての生徒がどのような考えをもっているか、生徒相互間でも確認できるようになった。それ故に、今まで以上に他者の意見によって多面的多角的に物事をとらえることができるようになった。

そのようなメリットを生かし、学校規模に合った個別最適な学び・共働的な学びをより充実させるための ICT を活用していきたいと考えた。

3 実践Ⅰ

① 学年・教科 第3学年 総合的な学習

② アプリケーション ジャムボード

③ 実践内容

第1回福祉体験学習では「車椅子体験」「白杖体験」を行った。事後学習では、グループごとに感想や気づきを「ジャムボード」で共有した。しかし、感じたことを挙げるのみであり、深まりに欠け、今後につなげるのが難しかった。

そこで、第2回福祉体験学習「高齢者疑似体験」の事後学習では、ジャムボードにあらかじめ「こんなことがあった」「感想・感じたこと」および、体験から「学んだこと」春野地区が「こうなるといいな」と思ったことの4つの記入欄を作っておき、体験終了後にグループで話し合う時間をとった<資料1>。

④ 成果と課題

ジャムボードに記入欄を作ったことにより、話し合う内容が明確になった。また、グループで話し合いをする時間をとることにより、体験から学んだことをより深く振り返ることができた。今後春野地区がどうなるとよいか等、個人での探求テーマを考える上で参考になる意見が出された。学級内で共有されなかったことが課題である。

4 実践Ⅱ

① 学年・教科 第2学年 音楽

② アプリケーション google スライド

③ 実践内容 鑑賞「フーガ短調」での実践

この曲は、バッハ作曲であり、バッハはバロック時代を代表する作曲家である。演奏楽器はパイプオルガンである。生徒にとって、普段なじみの少ない言葉が多く、教師の話の聞いても理解しているとは言い難い<資料2 ①~③>。そこで、自分で調べたい事柄を「A 作曲家について」「B 楽曲について」「C パイプオルガンについて」の3つから選び、さらにその中でキーワードとなる言葉を挙げておき、友達同士なるべく違うキーワードを選ぶように指示したことで、調べる内容の重なりが少なくなるように配慮した<資料2>。調べた事柄は、スライド一枚にまとめ、発表した。

④ 成果と課題

生徒が一斉に作業ができるというICTのメリットを感じた。また、自分で選んだ事柄を調べることは、生徒にとって主体的な活動となった。

さらに本校の規模でのメリットとして、調べる内容の重なりが少なく、自分の力でスライドを作ろうとしたことや、発表では個々で調べた内容が学級内で共有されたことを感じた。

今回は3時間計画で授業を行ったが、少ない授業数の中、時間の確保が課題である。

5 実践Ⅲ

- ① 学年・教科 第3学年 音楽
- ② アプリケーション スプレッドシート
- ③ 実践内容 鑑賞曲「ブルタバ（モルダウ）」

この曲は、ブルタバ川やその周辺の様子を曲に表している。今回は曲を聞きながら、曲と標題および風景写真を合わせていく活動を行った。標題・写真の選択肢をそれぞれ与えることにより、聴き取った音楽を「どのように感じたか」「それはなぜか」を共働的に考えるきっかけとした<資料3>。

④ 成果と課題

友達と共働作業をすることにより、自分の考えを相手に説明する必要性が生まれた。それにより、「そのような曲想を生み出している音楽の構造は何か」と根拠を考えた。感じ取った曲想と、聴き取った音楽の構造との関わりがどのようになっているのかを考えることでより深い学びへとつながった。音に集中させるため、グループ毎に1部屋を用意した。場所の確保、教員の机間指導の難しさを感じた。

<資料3>

場面	CD番号	標題	イメージ画	理由(音楽の要素を使えるとよい)
1			③	
2	A			
3	1・2	ブルタバの2つの源流		フルートかクラリネットか何か管楽器が複数目立っていたから。楽器の種類が少ないから。
4	3	ブルタバを表す旋律(テーマ)		
5	B		①	
6	4	森の狩猟		トライアングルが忙しく鳴らされている。はじめは管楽器が目立って勢いのある演奏。
7	C		⑥	
8	5	農民の結婚式		軽快なリズムだったから。後半が不穏
9	D		⑤	
10	6	月の光、水の精の踊り		ハーブが主張されていて穏やか。笛っぽい音。
11	E		②	
12	8	聖ヨハネの急流		荒々しい曲調 大太鼓などの低い音が主張されていて激しい感じ。 笛のピロピロが荒々しさを引き立たせている 危機感を感じる笛。
13	F		④	
14	9	幅広く流れるブルタバ		シンバルが使われていて壮大な感じ。 いままでのモルダウのテーマが壮大にされた感じ。 楽器の総動員。
15	G		⑧	
16	10	ビシェフラトの古城		音が多くて豪華。 トライアングルらしきものがリズムを取っている。 強弱がついている。 とにかく壮大。

<資料2>

A 作曲家について

1

この曲を作曲したバッハは**バロック時代**の代表的な作曲家です。

バッハの家は音楽家になる人が多く、バッハも兄からオルガンを教わったり、父からバイオリンを習ったりしました。

この時代は、**宗教と音楽との結びつき**も強く、バッハも教会や宮廷で仕えました。

バッハは管弦楽曲や室内楽曲やオルガン曲、チェンバロ曲、宗教音楽などで**1000曲以上にもものぼる曲**を作りました。

C パイプオルガンについて

3

パイプオルガンは空気が出て音が出る**仕組み**になっていて、一つの鍵盤を押すと特定のパイプに空気が送りこまれ音が鳴ります。音の高さや音色はパイプによって違います。

浜松の公共施設で**パイプオルガンがある場所は3カ所**です。

大きなパイプオルガンや**小さなパイプオルガン**等、様々なパイプオルガンがあります。

A 宗教と音楽との結びつき (3)

5

・宗教と音楽との結びつき

音楽と宗教の結びつきはきわめて深く、古今東西の宗教はそれぞれ独自の宗教音楽を発展させており、その様式や種類も非常に多岐にわたります。バラモン教、ヒンドゥー教、仏教、チベット仏教(ラマ教)などは、それぞれの地域に固有の宗教音楽を形成しました。宗教音楽の定義は、宗教的な行事・儀式の一部あるいは背景として演奏される音楽のことです。つまり、礼拝(典礼・奉神礼)のための賛美歌や聖歌、祭礼などに用いられる音楽など、宗教的な実用音楽です。



B 楽曲について

2

この時代は曲にタイトルをつけることは少なく、この曲もタイトルがついていません。「**フーガ**」形式であり、「**ト短調**」の曲であることから、「フーガト短調」の愛称で親しまれています。

1年生で学習した「春」と同時期に作られた曲で、**作曲家や楽曲に共通点**も多くあります。

A バッハ一族 (2)

4

バッハは1685年3月21日テューリンゲンシュウ地方、ヴァルトブルク城の、ふもとのまち、アイゼナハに生まれました。小さい頃から音楽への愛情を掻き立てられていたそうです。

バッハは子供だけで20人もいます。

バッハ一族の一代目ヴァイトゥス・バッハは水車小屋にツィトリンゲンという楽器を持ち込み、

粉をひくかわら演奏をして、拍手をとることを学び、音楽家系バッハ一族の礎を築いたとき

来ているそうです。

ヨハン・セバスティアン・バッハはドイツの作曲家であり

オルガニストだそうです。



A 「作曲した曲」について(9)

6

1 主よ人の望みの喜びよ…イギリスのピアニスト、マイラ・ヘスによってピアノ独奏用に編曲され、有名になった。

2 トッカータとフーガ…**トッカータとフーガ**で構成されている曲。偽作説もある謎の多い曲だが多くの人に知られている名曲。

3 ブランデンブルク協奏曲第5番…冒頭がとて有名で、BGMなどでよく使われる。フルート、ヴァイオリン、チェンバロが旋律を演奏している。

4 G線上のアリア…バッハの死後100年経ってから有名になった。CMだけでなく卒業式やお葬式でもよくBGMとして使われることが多い曲。

5 フーガ ト短調…バッハが宮廷のオルガニストとして活躍していた時代に作曲された。様々なジャンルの曲でモチーフとして使われていて多くの人に親しまれている。

トッカータ…主に鍵盤楽曲による、速い走向や細かな音形の変化などを伴った即興的な楽曲のこと

B ト短調 (13)

7

「ト長調」は・・・

ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ
ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ

主役の音が「ト」=「ソ」

A ト短調

短調は西洋音楽における調の一つで、**ト(G)音を主音とする短調である**。調号はフラット2箇所(B,E)である。

ト短調はヴァイオリンの最低弦の開放弦を主音として他の3本の内2本の開放弦が音階に含まれるため、ヴァイオリン曲が多く書かれている。さらにチェロとヴィオラでは調弦的に明るく華やかに響く調であるので、**バロック時代の管弦楽や弦楽合奏曲ではヴァイオリンの低音域で厳肅かつ神秘的雰囲気表現する手段として多く用いられた**。



9

C パイプオルガンの音色 (14)

・パイプオルガンは、設置場所に合わせた大きさやパイプの数、また鍵盤の数などはそれぞれ異なる。手鍵盤や足鍵盤に加えて、さまざまな音色を選べるため、非常に幅広い音域をカバーできる。

複数のストップを組み合わせて音の厚みを増し、強弱の差を表現している。

パイプオルガンは、豊かな倍音を生み出せる楽器である。目的の音を弾いた際に、偶然に含んでしまうような倍音も偶然ではなく可能な限り意図した倍音も混ぜて一緒に奏でることができるのが、**パイプオルガンの音色の魅力である**。



・シティ浜松中ホールにあるパイプオルガン
・赤松町にあるパイプオルガン



B 「フーガ」とは(7)

8

「フーガ」とは・・・一つ、あるいは複数の主題が次々と複雑に模倣(もほう)・反復されていく**対位法的楽曲**。

模倣(もほう)・・・自分で工夫して作り出すのではなく、すでにできているもの

対位法的楽曲・・・複数の独立したメロディーを同時に組み合わせる曲を作る時に使われる技法のこと。

主題・・・中心となる短い旋律。

C パイプオルガンのパイプの数 (8)

・静岡音楽館AOIIにあるパイプオルガンのパイプ数は**2868本**。

・アクティシティ浜松の中ホールのパイプオルガンのパイプ数は**4478本**。

・もっと多いものも少ないものもある。

※ 世界で**1番大きいパイプオルガン**はアメリカのアラバマ州モントgomeryのコンベンションホールのオルガンで、大きすぎて正確なパイプ数は不明。公称 33114本。

・世界で**1番小さいパイプオルガン**はRP-09。

・日本には現在約**1000台**のパイプオルガンがある。

10